（別紙８）

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成１９年１１月１４日

【評価実施概要】

事業所番号	０１７２９０１４５６		
法人名	医療法人社団　淳彩会　永山循環器科クリニック		
事業所名	グループホーム　やすらぎの里		
所在地	北海道旭川市永山４条４丁目９－１ （電　話）　0166-49-5581		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東１条３丁目１－６　旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	**平成19年11月14日**	評価確定日	**平成19年11月19日**

【情報提供票より】（平成１９年１０月１２日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　１５年　１２月　１５日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	22 人	常勤　15人，非常勤　7人，常勤換算　12.4人	

（２）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	1 階建ての　～　1　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	27,000　円		その他の経費(月額)	18,000～24,000 円
敷　金	有（　円）	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200　円			

（４）利用者の概要（　１０月１２日現在　）

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護１	1　名	要介護２	5　名		
要介護３	5　名	要介護４	4　名		
要介護５	2　名	要支援２	1　名		
年齢　平均	86.8 歳	最低	62 歳	最高	100 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	永山循環器科クリニック・旭川ペインクリニック・たくま歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医療法人を中核として、地域に密着した活動が永く地域住民や利用者・家族の信頼も厚いグループホームです。敷地は広く、ベランダから車椅子でも中庭に出られ椅子やベンチが配置されて日光浴を楽しめたり利用者同士ゆっくり談笑などできるスペースが用意されていると共に畑では、茄子やきゅうりなどの野菜が栽培され利用者と職員が一緒になって楽しんで収穫をしています。また、ホームを訪れ保育園児のお遊戯会や中学生がクラリネットの演奏を披露するなど交流が盛んに行われていたり、実習生の受け入れも積極的に行われています。共用空間では、利用者がパワーリハビリやマッサージ、談笑するなど思い思いに自分のペースで過ごされていました。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価では、認知症の理解や啓発について提案されていましたが、地域や町内会の人達が参加する運営推進会議も開催され活発な意見交換がされている様子が議事録として記録されています。また、今後さらに認知症についての広報に取り組まれる具体的な計画が予定されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は、全ての職員が参加して行われ、職員の研修の機会として捉えられケアサービスの質の向上に利用されています。また、外部評価の結果については改善の機会として話し合われ取り組まれています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は、評価日現在3回実施されています。その議題については ①利用状況の報告について ②ホーム主催の行事報告について ③実習生の受け入れについて ④年間行事について(林檎オーナーについて) ⑤次回開催の運営推進会議の要望や取り組みについて
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	毎月ホームの通信を発行して、利用者の日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子を家族に報告すると共に一人ひとりの健康状態や状況変化については「近況報告」として家族に情報提供されて意見や不安などが言いやすい雰囲気づくりをしています。また、運営推進会議での意見や要望についても運営に反映されケアサービスの質の向上に活かされています。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入して、町内の清掃などの行事に参加して地域の人達との交流が図られています。また、近隣への散歩や買い物、実習生の積極的な受入れ、保育園児や中学生との交流、包括支援センターとの連携など日常生活を通じて地域との連携が行われ認知症に対する理解や広報に取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者がその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念の重要性を月一度開催される全体会議を通して共有している。また、運営理念を達成するために具体的なグループホーム理行を掲げている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体医療法人を中核として、家族や地域の信頼も厚い。また、清掃などの町内会の行事に参加したり認知症に対する理解や広報の為に運営推進会議などで地元の人々との交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を良く理解して、日々の業務の中で活かす取り組みがされている。また、自己評価や前回の外部評価結果についても評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については評価日現在3回開催されている。メンバーは利用者、家族、地域の住民代表、知見を有する有識者、管理者・職員で構成され具体的に取り組んでいる。	○	今後は、さらに消防署や包括支援センターなどの協力を得ながら家族や地域の人達との意見交換を交えてサービスの向上に活かす取り組みが計画されています。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市担当者との連携の重要性を認識して相談や連携について日々取り組んでいる。また、母体法人は他グループホームの研修や勉強会などに場を提供して、地域のケアサービスの質の向上に先駆的な役割を果たしている。	○	今後は、運営推進会議を通じて市との連携を更に深めていく検討がされています。
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「通信」や「近況報告」」で利用者の日常の暮らしぶりや健康状態、運営推進会議の内容などそれぞれの家族に合わせた情報提供がされている。また、状態変化については都度電話連絡などで詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自己評価・外部評価の結果については、家族会や運営推進会議で報告されて意見・要望を聞く機会を作ったり、苦情相談窓口を明示して気軽に意見や苦情・相談ができる体制を整えそれらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は、低く定着率は安定している。また、共用空間で、職員の写真を掲示するなど家族に情報の提供をしている。運営者・管理者は職員の異動などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協議会や研究会などの外部の研修参加を積極的に奨励して、参加者はレポート報告でフォローアップされている。また、申送りなどで職場内研修や0JTの実施がされ職員を育てる取り組みがされている。	○	職員の外部研修参加が積極的に行われレポート報告で確認されていますが、申し送りなどで短時間でも確実な報告会の実施で研修参加の有効性を評価する取り組みも検討されてみては如何でしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人は、他グループホームの研修や勉強会などに場を提供して、地域のケアサービスの質の向上に先駆的な役割を果たしている。また、ネットワーク作りや相互訪問、情報交換などサービスの質を向上させる取り組みが行われている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、利用者・家族の見学などで不安を解消する取り組みや、場の雰囲気に馴染めるよう相談しながら工夫している。また、地域に根ざした母体医療法人の中のグループホームであり、利用者及び家族の信頼は厚い。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者と一緒に食事を楽しみ、食事の後片付けなど和やかな雰囲気で行われている。本人の気持ちになって、カラオケや習字などの趣味への支援や散歩や買物など畑での収穫など支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で一人ひとりの思いを共有して、散歩や買い物、紅葉見物や鍾乳洞までのドライブなど積極的に外出の機会を多く作ったりカラオケや習字などの趣味への支援や食事の後片付け、食の嗜好の把握など本人の希望や意向を尊重した取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画は作成されており、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。	○	現在、センター方式が導入中で管理者・職員間で話し合われ取り組まれています。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に記載している個別の期間を目安に評価を行い、計画的に見直しが行われています。また、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、その時々の要望に応じて通院の支援や要望のある場合には散歩や買い物など柔軟に支援を行っている。また、地域の行事や老人クラブへの参加などにも対応されています。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体医療法人の医師や看護師、利用者それぞれの主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体法人と連携して、利用者・家族とも相談しながら慎重に検討対応するよう職員間で共有される取り組みがされている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した配慮がされた取り組みが行われている。また、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重して声かけなど支援するよう取り組まれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重して、散歩やスーパーでの買い物、食後の後片付け、居室や廊下の掃除、畑での収穫など本人の希望やペースに沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に食後の片付けをしている。また、食事中は談笑などで和やかな雰囲気を醸し出している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に決めているが利用者の希望やタイミングに応じて対応している。また、ゆっくりとくつろいで入浴が楽しめるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのその日の希望に沿って、畑での野菜の収穫、ペットボトルを使ったゲームやカラオケ、掃除、食後の後片付け、寿司などの外食や買い物、気分転換のためのドライブなど外出の機会も多くつくられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	老人会などへの送迎、スーパーの買い物、散歩、白鳥見物、鍾乳洞までのドライブなど気分転換や心身のリフレッシュができるように積極的に外出ができるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は、鍵をかけずに自由に出入りできる工夫がされている。また、利用者が外出する時は、職員がさりげなく見守り安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように火災避難訓練が年2回実施されています。また、ホットライン・消火設備についても点検が実施され対策されています。	○	今後は、近隣の住民も参加した火災避難訓練を実施して日頃より協力が得られる働きかけを行う計画がされています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	具体的な水分・食事摂取量が記載され、栄養バランスやカロリーについても栄養士の指導・アドバイスも受けて支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な音の大きさや臭いは感じられない。共用空間にはソファ、椅子やテーブルが配置され一人になったり利用者同士談笑できるスペースが確保され、ベランダから中庭に車椅子でも出られるように設備が整い、畑での収穫や日光浴を楽しむことができ季節感や気分転換ができるように配慮された工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビや仏壇、使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる場となっていて習字などの作品が飾られ一人ひとりの思いが伝わる空間作りとなっている。また、家族の宿泊も可能となっている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。